

## グローバル人材育成プログラム に参加して

中 村 啓 人  
Hiroto NAKAMURA  
物質化学科 3年

### 1. はじめに

2018年8月22日から9月9日までの約三週間、アメリカ、カリフォルニア州でグローバル人材育成プログラムに参加した。この研修の目的は海外企業と日本企業の働き方の違いや、考え方の違いなどを実際に企業で活躍されている人の話を伺い、より深く理解し、自分には不足して、何が必要かを知ることであった。

### 2. ホームステイについて

私のホストファミリーは中国出身の中国人でユニオンシティという所に住まれており、家には両親と、一人の中国からの留学生で生活されていた。両親は息子がいるそうだが、中国の大学で日本語を勉強しているらしい。ホームステイ先の夫は家から歩いて10分程度にあるコンピュータ製造会社の責任者であり、それに関係して色々な話をしていただいた。日本の企業はなぜ強いのか、SI単位系を使わないアメリカで製品を作る際、非常に困ったなどの話はとても興味深かった。私は英語に自信がなく、きちんとコミュニケーションが取れるかなど、とても緊張していたが、ホストファミリーの温かい対応ですぐに打ち解けることが出来た。コミュニケーションには英語力があまりなくても、話そうとする姿勢が相手に伝われば、相手も自然に分かってくれるように感じた。私のホストファミリーは中国の方なので、英語で分からない単語があると、漢字で書いてみて、分かってもらう。このようなことが多々あり、ジェスチャーや筆談を会話に交えることで、会話のみがコミュニケーションの手段ではないことが痛感できた。生まれた国や皮膚の色が違って、相

手のことを思う気持ちは全世界共通のものである。

### 3. 観光ツアー

アメリカでの最初の3日間はサンフランシスコ周辺の観光ツアーであった。ゴールデンゲートブリッジ、Google本社、Apple本社、スタンフォード大学、など様々なところを観光した。中でも記憶に残っているのはApple本社であり、いかにしてオフィスと自然を調和させ、従業員が快適に仕事できる環境を提供できるか、非常に考えられたデザイン性の高い建物だと感じた。グッズショップにはレジが無く驚いた。商品を置いている机の引き出しがレジになっており、いかにコンパクトにするかというAppleの信念を見た。

### 4. 起業家の話について

最初の3日間、現地で働く様々な業界の起業家の方とお話することが出来た。起業家の方の話を聞いているといくつかの共通点があるように感じた。1つ目はどの起業家の方も目標が明確であること、2つ目は思い立ったらすぐ行動すること、3つ目は目標に対しての努力を惜しまないということである。ある起業家の方は“人生は自分の思い通りになる”と話されていた。それは努力があってこそそのことであり、言い換えると努力しないと思い通りにならないということであり、努力なくして成功は生まれないのだと感じた。中でも“出る杭は打たれるが、出過ぎる杭は引き抜かれる”という言葉に衝撃を受けた。出ている途中の杭は打たれるが、出過ぎた杭は引き抜かれるのである。何事も完璧にこなそうとするのではなく、一つのことを極めた人などが引き抜かれ、社会をリードしていく。そう感じた。

### 5. インターンシップについて

私はUNITED FOODS INTERNATIONAL (USA) INC. という食品企業のQC (Quality Control) 部門、Dry エリアに8/27~9/7まで研修させていただいた。Dry エリアは粉末の調査が主で、主な業務は



図1 調査の様子。粉末試料を水に溶かし、その色等を調査する。

粉末の食品分析、食品安全管理、衛生管理などである。最初の一日目は工場内の見学、主な業務の説明を受け、終了した。二日目から本格的な業務が始まった。昨日、工場で製造した製品がきちんと製造されているかなどを pH や色、匂い、味などから判断した。この食品分析を行ってからでないと製品が出荷出来ないのも、非常に重要な業務である。明日製造する材料がきちんと決められた数量あるかどうか等を調べる業務も行った。きちんと決められた量が無く、そのまま製造してしまうと、その分の材料費や様々な経費が無駄になるので欠かせない製品を管理する上では欠かせない業務である。

工場内の安全管理として、清掃が終わった生産ラインの衛生チェック（ATP 拭き取り検査）を行った。検査キットの綿棒で清掃が終わった部分を拭き、酵素と反応させ、その発光量から細菌数を知り、衛生度を検査する方法である。ある一定量以上の細菌数だと、商品を生産したときに製品が汚染されるので一定量以下になるまで清掃を行っていた。

自社製品の品質劣化の検査も行った。一年前の製品を溶媒に溶かし、プレートに混合溶液を入れ、常温で放置し、どのような菌が発生し、どれくらいの数が発生するのかを調べた。自社の製品の品質劣化の程度を知り、なぜこの菌が発生しているのか、なぜこの生菌量が存在しているか等を調べることでさらに良い商品は生まれていくのだと感じた。また、



図2 ATP 拭き取り検査器具  
(左：本体、右：検査キット。下部に綿棒が内蔵されている)

会議にも出席させていただいた。議題は GHS (Globally Harmonized System) についてであった。会議は休憩室で行われ、書類が配られ、それに沿って進められた。GHS とは何か、なぜ必要か、MSDS との併用で事故を減らす方法、等が主な議題であった。英語で会議は初めての体験であり、戸惑いながらも必死に会話の内容の推測を行い、書類を読むことで会議の内容を理解することができた。

## 6. おわりに

今回のアメリカでの経験は間違いなく自分をワンランク以上、成長させてくれた。英語でしかコミュニケーションを取れず、日本語が使えない環境は日本の中で生活していてあまり体験できないことであり、その経験は座学では学べない貴重な経験だと私は思っている。その中で思ったのが“人間死ぬ気でやれば何でもできる”ということであり、自分というものを改めて見直すきっかけにもなった。

最後にインターン先として受け入れてくださった UNITED FOODS INTERNATIONAL (USA) INC. 様に心より御礼申し上げます。